

月曜求人

企画・制作 読売新聞東京本社広告局



社会人インターンシップで夢を
実現した神尾隆昌さん(右)

未経験分野に挑戦

広がる社会人インターン

転職前に未経験分野に挑戦したいという人向けや、障害者雇用推進のためのインターンシップ(就業体験)が目玉されている。

業務系システムの開発・販売などを行うワークスアプリケーションズ(東京・港区)は、2年前から在職しながら同社の業務を体験できる社会人向けのインターンシップ制度を取り入れている。

リクルーティンググループの早船 真章さんは、「新卒で入社した人の30%が3年以内に辞めるという雇用ミスマッチが起きている中で、転職のリスクを避けながらも、未経験だが異業種の業務も体験したいという潜在的転職者層が増えている」と制度導入の背景を説明する。

同社の社会人インターンシップの対象は20代で、平日の夜や土曜日をのインターンシップはもっと見聞されるべきだ」と指摘する。

一方、今年の2月に初めて障害者3人を迎え、就業体験プログラムを実施したのは、組織・人事コ

ンサルディング会社のマングロープ(千代田区)。
内容は、パソコンを使った営業リストの整備、営業パンフレットの折り込みや封入など。3日間、3人が一生懸命打ち込む姿に、社員が逆に教えられることが多かったという。

最終日には、感謝状や寄せ書き、アルバムなどを贈った。

社長の今野誠一さんは「将来、障害者雇用を推進する計画があり初めて試みた。高い集中度と丁寧な作業で期待以上の成果を残してくれた」と話している。

利用して最長4か月行われる。在職したまま、自分自身の能力、適性を見極められる機会を提供し、次のキャリア構築のきっかけ作りにも役立つことが目的だ。

2006年に2回実施され、3回目を目指せば年内に行いたいという。ゼロからシステムを作り、作動させる一連の作業から、同社が重視する問題解決能力を備えているかどうか判断し、優秀な人には、3年間有効の入社パスを発行する。昨年、2人が入社した。同制度第一号の神尾